

第1回 ゴミパイプライン協議会 議事録

会議名	: ゴミパイプライン協議会
開催日	: 2016年09月17日(土) 10:00~12:00
場所	: 芦屋市環境処理センター会議室
参加者	
利用者の会より	: 大永代表幹事、山口委員長、友田副委員長、長谷委員、春木委員、三宅委員
市より	: 北川部長、藪田主幹(司会進行)、尾川係長、林パイプライン担当
傍聴者	: 18名
作成日	: 2016年10月17日 議事録作成: 山口委員長、藪田主幹

1. 現在のパイプライン障害と資料の確認

(市): 浜風町、新浜町、南浜町でパイプラインに穴が開いたり、設備の不具合があり長期間止まっています。浜風町、新浜町については、昨日夕方(9月16日)なんとか復旧し、運転再開できています。今の段階で、南浜町の1箇所だけ運転できない状態になっています。たいへんご迷惑をおかけして申し訳なく思っています。一日も早い復旧を目指して作業を進めてまいります。

それではまだ皆さんと調整できていないというところで、資料も今日のはじめてお配りさせてもらったものになるが、何もないと話ができないと思ひまして、市のほうでこのような資料を用意させてもらっています。今日のところは次第(議題)にそって会議を進めさせていただきたいと思っています。

資料ですが、机の上に置かせていただいていたが、確認をお願いします。まず、第1回ゴミパイプライン協議会ということでA4、1枚の「次第」があります。次に、資料1として「平成27年度パイプライン施設勉強会でいただいたご意見」ということでA4横のホッチキス止めをしたもの、続いて資料2ということで一番上に芦屋浜の平面図と後ろには写真の付いた資料「パイプラインの現在の状況(9/16現在)」がございまして、資料3ということでホッチキス止めしていますがA3の数字がいっぱい並んだもの。資料4ということでA4縦1枚のものとなっています。

2. 自己紹介

(司会): 第1回目ということもありますので、まず市のほうから紹介させていただきます。

(市): 市民生活部長の北川です。よろしくお願いします。環境施設課係長の尾川です。よろしくお願いします。環境施設課のパイプライン担当の林です。私は施設担当課長を担当させてもらっています藪田です。よろしくお願いします。

(利用者の会): 芦屋浜自治連合会代表の大永です。よろしくお願いします。勉強始めてまもないですが緑町の三宅と申します。よろしくお願いします。ちょっと長くなりますが、資料を作ってきました。利用者の会の山口と申します。よろしくお願いします。今、住民説明会をやっていますが、その中で説明しているひとつのものです。後ろ(傍聴者)にはなくて申し訳ありません。私自身これにかかわって勉強すればするほどですね、本質が何だろうかと考えたら、いけいけどんどの時代に大量消費・大量生産でゴミがいっぱい出てきた。なんとかこのゴミを処理しなければならないということ

で、新しい街はパイプラインをひいて、ごみを処理したらとのアイデアが当時出たと思います。それをして私たちは受けているが、実は40年経っていろいろな問題がでてきて、その尻拭いを私たちはしなければならないということが私の認識です。誰が、良い、悪いという話ではなくて、皆で考えなくてはならない問題だと私は考えます。当然、市はコストの問題が大きく全面に上がってきていると思います。これを解決しなければならないと。同時に、国や県は広域化の問題があり、せせ細かい市の中で本当にこういうごみ処理をやるのがいいのか問題が出てきている。利用者、私たちの立場にすると、便益性とか衛生面、生活環境面、安全性、高齢化の問題、資産価値の低下、埋設管の撤去、パイプラインとの交換条件でごみ焼却場ができていことがあるので、こういう面をきっちりと考えないと利用者は納得できない。芦屋市民全体から見ると、芦屋浜だけにこれ以上投資をするのはどうなのか、不公平の面も出てきている。それから社会的ニーズとして、ごみの分別、ある人はもう「ごみというものはない」と、話される方もある。全部資源だという考え方。国は3Rということりサイクルを含めていろいろなことをやっている。こういう芦屋市の問題、国・県の問題、私たち(パイプライン利用者)の問題、芦屋市全体の問題、社会的ニーズを、この5つの問題を包括したような解決案をこの場で皆で知恵を出し合って、お前が悪い、これが悪いという話ではなくて、なんとかこの問題を解決することがこの協議会のあるべき姿だと私たちは理解している。

山口委員長の下でやっております副委員長の友田と申します。よろしくお願ひします。南浜町1街区の春木です。仕事を終えて戻ってきて、平成26年に自治会会長ということになりました。その時に市民と市長の集会所トークで市長が第三者委員会を設置してやるということで、それ以降自治会長だから住民の皆さんに情報を流さなくてはならないということで、いろいろな会議を傍聴させていただいてきました。市長とも面談させていただいた。今は会長ではないが、何故か呼ばれて今委員となっております。そのころから思っていますが、コストダウンについても、排出ガス量についても、もっと住民と一体となって、改善できると思っている。これをずっと言い続けてきている。ぜひその点も踏まえてよろしくお願ひします。私(長谷)今日、データの分析、それぞれのメンバーが役割を決めてまして、法制度関係を担当している松木議員、提案を担当している森議員、データの方は私ということで参加させてもらっています。よろしくお願ひします。

(司会):このメンバーで進めていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。次第にそって進めさせてもらってよろしいでしょうか。

(利用者の会):今日のところはこの次第でいくが、今後は私たちと事前に話し合ってもらいたい。こんなんでよいかとの確認だけをさせて欲しい。

(司会):はい。それでは、「はじめに」ということで北川部長から挨拶をお願ひします。

(市):改めて、北川です。今日が第1回目の協議会ということでございますので、以前から市が取り組んでいることにつきまして、HP等いろいろお話とか周知はしているつもりなんですけど、こういう場で改めまして今までの市の取り組んできた経過、それと今後の予定、そのあたりを若干ですがしてみたいと思ひます。芦屋市がパイプラインを導入したのは、芦屋浜が昭和54年、南芦屋浜が平成10年ということでございます。芦屋浜につきましては30年以上経っているということから、やはり老朽化という問題がございます。それを運転していつていることでもさまざまな課題が生じているということでございます。やはり、維持管理費ということが、パッカー車で回っているのとそれと比較して割高になっているという課題がまずあります。

これからもパイプラインを運転していくとなりますと、近い将来施設の改修、大規模改修ですね、設備をやりかえるという問題が出てまいります。そうしますと、大きな維持管理とはまた違う額の費用がかかってくるという大きな課題がございます。先ほどらいコストということが出てまいっております。行政が住民の方にサービスを提供するにあたりまして、サービスを注視しながら、いかに効率よくサービスを提供するかという所の視点を踏まえて、行政改革というものを常にやっていくということが行政の役割の一つでもあります。「このパイプラインのあり方を検討しましょう」というテーマで平成24年度から、この行政改革のテーブルにのってきたという経過がございます。部内、庁内でも検討を進めてまいりました。その中でやはり外部の方のご意見を聞こうということも当然必要となりまして、パイプライン検討委員会というものを作りまして、4回開催しご意見をいただきました。これはその検討委員会の委員会のまとめという形では出さなくて、それぞれの委員さんのお立場でご意見をいただくという形でいただきました。その中でいろいろご意見をいただきましたが、ポイントのひとつは、利用者の意見を良く聞きなさい、というご意見はどの委員さんからも頂いたということでございます。

そういったことを受けまして、市としても利用者の方にご意見をいただく、その前にパイプライン施設をですね、どういうものか、まずその中身を知っていただくことから始めないとだめだということがございまして、その勉強会というものもさせていただいたということでございます。その中でこの利用者の会の皆さんと話をしていこうということで、ゴミパイプライン協議会というものが今回立ち上がってきたという経過がございます。今後の予定でございます。このお話をずっと進めさせていただいて、今後どうしていくんだということがございます。話し合いを進めていった中で、今年度末、ですから来年3月までが28年度でございます。そういった中で、この協議会のご意見を伺って考え方を整理していきたいという考えを持っています。市としまして廃棄物減量等推進審議会が以前からございまして、ごみ行政に関してこの審議会でご意見をいただいております。

このパイプラインにつきましても、この協議会のお話も踏まえて、来年2月・3月ごろには、審議会にご意見をいただくということで諮問というのがございまして、手続き上ありまして、諮問させていただいて、そこでもご意見をいただくという予定にしております。そういった審議会のご意見もいただきまして、その後、市としてこのパイプラインにつきましても方向性を決めていきたいというようなことで、今用意しております。そういった準備もしておりますが、まずはこの協議会において、いろいろ意見を出し合って、課題というものも出し合って、我々としても十分そのあたりのご意見も踏まえまして、今後の取り組みをしていきたいと考えてございます。いろいろ議論していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(司会):我々(市)で作った資料をご説明させていただいて、その後いろいろお話し合いができればと思っておりますので、順番に説明させていただきます。

3. パイプラインの現在の運転状況(資料2)

(市):冒頭にもちょっと申し上げましたけれどもパイプラインの穴あきなどで長期間止まっているものがございます。ここ何年間か立て続けにこういうことが続いておりまして、長期間ご不便をおかけしているという内容になっております。資料のほうを説明させていただきます。芦屋浜の平面図がございまして、水色で囲っているところが今回長期間止まっていたところで、浜風町のこの部分、投入口にしますと10箇所使えない状態になっておりました。期間ですけれども6月13日から7月28日までまず最初

に止まりました。一旦動いたんですけども約1ヶ月もしない内にまた停止しました。

8月22日～9月16日、昨日まで復旧に時間を要してしまいました。個々の箇所につきましては、原因が輸送管の穴あきということで何箇所か発見されております。穴あきの場所なんですけれども赤い線で囲った中の丸い印のついた所、5箇所となっております。現在はこの5箇所につきまして、仮補修しまして水の浸入を止めまして運転をしているところでございます。浜風町の左上になるのですが、投入口でいいますと03149と書いている所、新浜町の投入口1箇所になるのですが、こちらが8月30日～9月16日まで、これも昨日の夕方まで止まっておりました。こちらは調査したんですが、穴がちょっと見当たらず、いま原因がわからなかった。管の中にゴミが詰まっていたという状態なのですが、何が原因でということがハッキリ解らなかつたという状態です。裏のページにいきますと、南芦屋浜になるのですが、左下南芦屋浜町の投入口1箇所。こちらにつきましては、8月29日～本日もまだ止まっております。使えない状態になっております。こちらはパイプラインの穴あきとかではなく、システム上の異常が出ているということで、これまだ解除ができていないという状況でございます。

先ほどの浜風町と新浜町の復旧は終わっていますので、その状況、次のページに写真がありますのでこちらでまた説明をさせていただきたいと思っております。先ほども言いましたけど、6月13日ですね、浜風町の投入口03031という所でまず閉塞が発見されました。この写真のように管の中はゴミがいっぱい詰まっていたという状況です。どうやって解ったかという定時運転といいまして、朝1回、夕方1回決められた時間に定時で運転しているんですけども、その時にブローの圧力異常が発生しまして止まってしまったということで、「どっかが詰まっているな」ということは解ります。そこで今定時でどこの箇所運転していたかということで、ちょうど03031の周辺を運転していたということで点検口を開けるとこういう状態だったということです。03031がどこかといいますと、1枚目の平面図でいきますと、水色の着色しているところの左下の投入口になるんですが、ちょうど浜風小学校の東側の投入口になります。

まず、ここで発見されました。ということで、ここから上流に向けてずっと右へ行って上へあがって行きます。03045までの間を調査して、ゴミが詰まっているという状況でございました。まずゴミが詰まっておりますので、このゴミを取らないと原因もなにも解らないということで、ちょっと時間がかかったのですが、真ん中の写真のように、黄色いトラックですね、高圧洗浄車、強力吸引車、給吸水車などを手配しまして、ゴミを除去していったということです。この高圧洗浄車、強力吸引車というのが、管の洗浄なんですけど、主に下水管を洗浄をする装置でして、それをパイプラインのゴミの除去に使っております。綺麗にゴミが取れますと原因追求するということで、左下のカメラを管の中に入れていきます。このカメラにはライトが付いていて、自走式となっておりますので、管の中を走って、360度チェックしながら進んでいきます。それで、穴あきなんかを発見するのですが、それでもその穴から水が湧き出てきている状態です。水がありますと穴が発見できないので右側の下のよう、排水作業を同時にしながら調査をしていきました。

その結果が裏のページになります。まず最初に見つかったのが03032という所ですね。1枚目の平面図でいきますと、浜風小学校からちょっと東へ行って、少し上へあがった所なんですけど、ちょうどカーブの所で、大きな穴(42cm×80cm)が空いてございました。穴はあったのですが、こちらから水が出ていたわけではなかったんで、これは原因ではないなということだったんですけども、一応発見したので、水中ポンプで仮に補修をしております。大きな穴でしたので、このまま運転していくと危ないので補修をしております。これが、7月15日の時点でございます。引き続きずっと排水しな

から調査していったのですが、次に、点検口の K1、点検口から下流にむけて約 70m の所でまた穴が発見されました。点検口の K1 というのが、ちょっとわかりにくいのですが、水色の真ん中のちょっと下ぐらいに書いてあるのですが、K1 という点検口から下に向けて 70m 進んだ所にあります。この丸印の左側の箇所になります。こちらの穴がだいたい 13cm×4cm 程度の穴だったのですが、ここから大量の水が湧き出てきておりました。排水しても排水しても大量の水が湧いてきておまして、この水を止めるのに非常に苦労して時間が掛かったということになります。なんとか止めたんですが、これが 7 月 27 日でございます。水が止まりまして、この後、管の中をずっと調査していきまして、他に穴がない、水の浸入がないというのを確認しまして、一旦 7 月 28 日に運転を再開させていただいております。

ずっと調子よく動いていたのですが、8 月 22 日にまた閉塞してしまったということです。これも同じようにこのラインということがわかりまして、また、黄色いトラックを手配しまして、ごみをずっと除去して、水を排水しながら、カメラで調査してまいったのですが、この時にも、前回発見できなかった穴が発見されました。それが 03054 という所で、このラインでいきますと、一番先端の投入口になります。一番先端の丸印の所で穴が発見されました。寸法的には 2cm×1cm と小さなものでしたが、水が写真でもわかるように湧いてきているという状況でしたので、9 月の 8 日・9 日で仮補修をおこないました。

引き続きカメラでまたずっと調査をずっとしていたのですが、次のページにまいります。写真の一番上ですが、03061、先ほどの 03054 のすこし北側になるのですが、そこでも水の浸入が確認されました。ここは明確に穴はなかったのですが、滲み出てきているという状況で水が出てきていたので、同じく 9 月 8・9 日にこの 2 日間で仮補修をしているという状況です。

引き続き他の部分もカメラでずっと調査をしていたのですが、03033 の所がだいぶ南の方へ戻ってくるのですが、そちらでも輸送管の割れが発見されまして、こちらからも若干の水が滲み出てきている状態でしたので仮補修をしました。

この後も引き続き排水しながらカメラ調査をし、試運転をおこないながら、昨日 9 月 16 日の夕方に復旧したという状況になっております。今朝の状態を確認してきたのですが、とりあえず順調に動いている状況でございます。

続きまして次のページが、新浜町の状況でございます。投入口番号が 03149 という所の投入口が使えてなかったですけど、写真はちょうど駐輪場の辺りになるのですかね、1G2 の 2 の点検口ですが、そちらから確認しますとこのような状況でございました。点検口から上流、先端のほうを見ますと、管の下のほうにずっと湿ったようなごみが滞留している。そのずっと奥にはごみが閉塞してしまっている状況でした。その点検口から下流、センターの方に向けて見てみますと、またず〜と管の底のほうに湿った濡れたごみが滞留しているという状態でした。どこからか水が入って、ごみと水が混ざってこういう状態になったんだなあということはこれで解るが、同じように黄色いトラックですね、洗浄車とかバキューム車を呼んで清掃したが、その後カメラで調査しましたがこれといった穴は発見できませんでした。

とりあえず穴もなく運転できそうだったので、昨日の夕方から様子を見ながらという形で運転しております。これにつきましても今朝も問題なく動いておりました。

最後のページが新浜町の作業の状況です。これマンションの中だったのですが、管理組合さんと話をさせていただいて、トラックを入れさせてもらってちょうど駐輪場だったので、自転車も移動させていただいて作業をしたというような状況でございます。本当に長い間止まっていたということも

ありまして、浜風町のほうにつきましては、期間も長いというのもあったのと、10箇所広範囲に止まっていたということで、ごみが近所の投入口に、捨てにいけない状況でしたので、臨時的に車収集ということをしていただきました。月曜日から土曜日まで毎朝収集させていただいて日曜日だけちょっと休みを頂いたのですが、それでもやはりカラスの被害がだいぶあったみたいで、大変ご苦労をおかけしたような状況で申し訳ないと感じております。すみませんでした。(1)のパイプラインの現在の運転状況につきましては、以上となっております。

(利用者の会): 藪田さんが夜遅くまでトラブル情報をいつもメールで頂きありがとうございます。それでじゃあどうしたのですか、英語でいうと So what というのですが、その次は何なのですか? こういうことがありました、じゃ次はというお話を聞きたい。この後どうするのですか。ポロポロ穴が空いていて、非常に薄い部分があり、たまたまそこが空いていて、他もどんどん空いてくるんですね。時間もありませんが、市としてそんな状態でつきあたりばったりで、穴が空いたら修理しなくてはならないというのはわかるが、その状態でいいんですか。またどんどん起きますよ。

(市): まさしくその通りでございまして、今我々がやっているのは穴が空いたらそれを一生懸命探して、直していくという感じでそのうち追いつかなくなりそうなところなんです。こういうことが本来起こらないためには耐用年数を考慮して、それが過ぎると計画的に更新していかないといけないということなんですけれども、こちらにつきましては昭和 54 年から使用している管とか、地下にある貯留機械がありまして、耐用年数は十分過ぎていると我々も感じています。計画的にやっと思いまして、非常に多額の費用が必要になってくるということで、この費用をどう捻出しましょうという中でこういう検討をしなければならない状況になっているんです。こういう話の中で「やっぱりこれは計画的に直して今後も続けていこうよ」という話でございましたら、どこからかこの費用を捻出して工事を進めていこうけど、今その結論が出ていない中では、やるもやらんもできないという状況なので、我々は(パイプラインの)空いているところを一生懸命直している状況でございまして。

(利用者の会): それでいいのですか。

(市): 今これがもう。

(利用者の会): 僕に言わせると無駄な金だと思うんです。修理しても修理してもドンドン出てくると、それに全体で2億円ぐらい掛かっている、どんどん増えていくと思う。そうしたら出来るだけ早くどうするのかを検討をして、更新するならばとかその辺をしていかないとそのお金は税金ですから。廃止する、しないは別としてこの問題をどうしていくのか真剣に提案していきたい。この部分だけは更新してドーンとその部分を替えるとか、そういうことを考えないとなんぼ金があっても足りないような気がします。それがムダ金みたいな気がする。一生懸命夜遅くまで土日もやられていることがわかっているので、いろいろな人の知恵を集めて考えないといけないと思う。

(利用者の会): これ見せてもらったら、内壁の腐食がものすごいひどいですね。これまで何であれせん(手を打たなかった)のですか。先ほど北川部長さんが第三者委員会で検討したと言われましたけれど、私はこの辺も含めて「あるべき姿をやるのかなあ」と思ったら、最初から廃止案を出されてそれに対して言うことは疑問に思った。当然穴が空いたら中のごみが水分でだんだん重たくなって塞いできて、内壁もこんな荒かったり、ひっかかったり、この辺は通常企業だったら予防保全、それもタイムベースの予防保全ではなく、コンディションベースの予防保全をやっている。そうしたら電流値の日常監視、その電流値でも通常範囲を明記して、ここから引っ張るときには通常範囲を超えてきたら、何か引っかかったり、穴が空いたりしているとちゃうか、それをずっと見てだんだん広がっ

たら、あるときに覗いてということをやりますが、そういうふうな日常管理をされていないのですか。

(市): 一応電流というのか、空気で引っ張っていますのでブロワの吸い込み圧力でその辺は。

(利用者の会): 圧力の送風機の電流というか。

(市): 確認していつもと違うなど、引っ張る場所によって距離が違いますので、正常な圧力と違うのです、場所によって。その辺はずっと運転をやっている方が。

(利用者の会): これ(写真)を見たら、完全に閉塞してますよね。これだったらやっていると言われるが、詰まっているので圧力は振り切れてしまいます。

(市): ブロワが止まります。

(利用者の会): オーバーロードで止まります。そこまでこないと発見できないとその辺が、にっちもさっちもいかないような気がしますね。今後、頻繁にあちこちで発生してきますよ。

(利用者の会): 今は穴が空いた部分の補修でしょう。例えばジョイントからジョイントが何メーターあるのか知りませんが、配管を新しく更新するとそういうぐらいの感じでやらないと。今はちょっと直してのやり方なんです。先ほど話がありました平成 28 年度末には方向性を決めるということで話し合いましたが、そういう方向を決めるには何と何を、どういうふうに決めていかなければならないというスケジュールを出さないと、ただ決めていっただけでは、28 年度末が来ても何も決まっていない、こういうことになりそうな気がします。

(市): そうですね、そんなこともありますので、我々も早く決めてそれに向けて動きたい。使うのであれば早く直すようしたいし、この状態を長く引っ張ることは非常にしんどいし厳しい。

(利用者の会): 同じように使っている他の自治体から 30 年以上何もしていないと聞いたのですが、その辺を何か調べています? 何が違うかということです。

(市): あるところでは、土の中に埋まっていなくて共同溝の中にパイプラインがあって容易に補修ができる所もありますね。

(利用者の会): そういうことではなく、細かなこと調べていますか。日常管理や内壁の材質とかライニングしているかとかそのようなことも含めて。

(市): すべてがすべて聞いたわけではありませんが。

(利用者の会): 調べて欲しいですね。そういう(情報)は出ていますからね。もちろん廃止されたほうが多いですよ。他の所で使っているもので 30 年以上修理していない。調べなければならぬのでは。JFE(旧日本鋼管)も知っていると思いますよ。

(利用者の会): わかりやすく言うと、技術的な話がメインだが、普通、例えば、上水とか下水、管もそうだけど、定期的に補修をしていくやり方、寿命がきそうだと定期的にやっていく、そういう形で事故を防いでいる。だったらパイプラインはどうだったかという、元からこれに対するランニングコストの経費の計算の中味で、いくつも資料を見たが、元からこれだけの経費が将来掛かるから、こういう形のものが計算がどこにも出ていない。その状態で経費だけ比較されてどうや、経費のことは後で細かい点をチェックしていかなければならないが、そういう状況で何も無い状態で、これから何十億、何百億掛かります。「さあ、どうします」というストーリー(話)になるでしょう。これは、計画を作るにしても、先々何をするのか計画的なものはいっさい何も出していないですよ。それで、今直ちに利用者にたいしてこうやという言い方をされると、それは納得できません。なかなか話はまとまらないでしょうね。そのところを、私たちの今日の担当はデータをどうやってみていこうということだが、もともとない計画のちょっとづつ、ちょっとづつやっていけばこうならなかったものを、やらないでこの状態になって「さあどうしましょうか」という話ではないでしょう。もともと使うためにやっていく計画があった

上でこうなっているのであればストーリー(話)はわかりやすい。それがないのでじゃあどうなっているんだと思います。

(利用者の会):この辺の話は問題があるので整理して詰めていきましょう。

4. 平成 27 年度パイプライン施設勉強会でいただいたご意見(資料1)

(市):平成 27 年度に市が実施したパイプライン施設の勉強会でいただいたご意見をちょっとだけ紹介させていただきたい。資料1で A4横にホッチキス止めをしたものになります。1P 目には、勉強会を実施した日でありますとか、場所なんかを書いていっております。2P 目を見ますと、工事見学を含めて全部で 16 回開催してたのですが、参加していただいた方が 296 名という状態でした。この場所でやったり、集会所でやったりということたくさん集まっていたかなと思ってます。

この中でずっと下、次のページに渡っていろいろいただいたご意見やご質問を並べております。その時に、我々が答えた部分が右に→をして市と書いて、回答した内容をここに書いております。ご意見をたくさんいただきましたが、一番多かったご意見というのが、2P 目の下から4行目になります。「長く使っていくために住民費用負担も考えて欲しい」というご意見がこの中では一番多かったです。我々としてはこの時ですね、「今のところ費用負担までは考えていません」という回答をさせていただきました。今、なかなか安定した運転ができていないというのがありますし、もし費用を頂くにしても、費用をどうやって徴収するんだという課題も出てきます。まずは安定運転が今はなかなかできていないということもあって、費用負担まではちょっとできないかなあと考えて、このようにお答えさせていただきました。

次に、多かったご意見がその下になります。「とにかく存続して欲しいと、できるだけ長く使っていきたいんだ」という意見が多かったです。やはりパイプラインは便利で、衛生的で、たいへん好かれている設備なのかなあと思いました。

次に多かった意見というのが8P になるのですが、上から4行目。「使い方や分別を徹底させる方法。チラシ配布や張り紙なども今後続けていって欲しい」というような、もっと周知して欲しいというご意見がたくさんございました。この時、我々としては、「考えてみます」というようなありきたりな答えをさせていただいたのですが、詳しくご意見いただいた中味は、「年2~3回配布物をする」とか、「掲示板があるのでそちらに貼って欲しい」と、また「自治会にもしっかりと教えて欲しい」とか、「新規の転入者—外から引っ越してこられた方にもしっかりとお知らせしないとあかんよ」というようなご意見とか、今、「市のほうではやっているといいながらも知らない人はまだまだいるよ」とかいうご意見もありました。「自治会も協力するので一緒にやっていきましょう」とか、これ「専用の掲示板を作りませんか」というようなご意見もたくさんいただきました。この様な一緒にやっていきましょうみたいなご意見を受けまして、我々としても何か取り組んでいきたいなと非常に思いました。具体的な案・策は思いついていないのですが、この場でなにか、これにつきましても対策を出せていけたら、やっていけたらなあと考えております。この様な意見が多く、反省とうれしさでございました。

次に多かったご意見が9P なんですけども、上から 5 行目、「年間の維持費は。その内訳を教えてください」ということで、我々としては年間工事費で約 6 千万ほど使っています。電気代約 4

千万使っています。運転や点検などの委託料として約 8 千万円使っていますと説明をさせていただきました。やはり我々費用のことをちょっと申し上げていたのも、その内訳にかなり関心がいつているのかなあと感じました。日ごろからこの辺のことを説明不足というのがあって勉強会でも質問が多かったかなあと感じます。

他にたくさんあってひとつづつ説明すると時間もかかって仕方がないので、またゆっくり見ていただけたらなあと思います。特に多かった意見を今紹介させていただきました。こういう意見をたくさんいただきました。このご意見をしっかり受け止めて、今後も検討するのに十分考慮して進んでいきたいと思っています。ありがとうございました。

(司会):これについて何かありますか、それとも(会議を)進めますか。

(利用者の会):電気代 4 千万というたら、需用費のほとんど 100%ですね。

(市):需用費のほぼ電気代、需用費の内訳としましては、消耗品とか、一番大きいのは電気代。

(利用者の会):11P なんだけど、減価償却のことを言っているの、機械の実質寿命ではないでしょう。

(市):はい。違います。

(利用者の会):なんで 5 年も第三者委員会で議論・(不明)・疑問だなあ。

(市):法的に寿命とか、耐用年数はないですね。あるとしたらこういう財産処分の期間でありますとか、後、ここ環境省(旧厚生省)の管轄でやってるので、その補助金を使うにあたっての年数とかはあるのですが、非常に短いので実際あれで更新していくのは実際に(無理)です。

(利用者の会):コンディションベースで日々管理して、つぶれる直前まで、なんかの品種変えの時に、止まるときに合わせてやって、できる限りコストを下げるといふあれなんです。

(市):そんなんが法的にあるのですが、我々としたら大型の機械、ブローアですとか、分離機ですとか、ドラム、こういうのはだいたい毎年手を入れていけば 30 年は持つのではないかと、ただコンプレッサーとか水中ポンプとか汎用品につきましては頑張っても 15 年ぐらいがどうかとこの時答えさせてもらいました。一番寿命が短いのが電子機器、コンピュータとか基盤とかというのが 10 年ぐらいでいろいろ不具合が発生してくるということで、非常にこれが今使っている中で一番寿命が短いのが電子機器・電装系ではないかと考えております。10 年きたから取り替えるというわけではないのですが、この辺がだいたい過ぎると不具合が発生してくるかなあというラインです。実際、平成 25 年に更新したんですけど、パイプラインの中央制御室にありますコンピュータ、これも 15 年で更新しております。平成 25 年に更新したのですが、やはりシステムダウンでありますとか、一旦電源を落とすと立ちあがらないとか起こっております、コンピュータがダウンしてしまうと設備全部が動かなくなってしまうということがありまして、コンピュータは 15 年で更新したという経緯があります。

5. データ検証①

(司会):データ検証①にまいります。

(市):非常に申し訳ないのですが、データ検証①とさせていただいたのは今後も続きますよという意味を込めて書いているのですが、実は、事前に利用者の会の方から「こういうデータあったら検証できるね」とご依頼いただいたわけなんですけど、すべて今日用意できていないという状況で、用意できたのが、ここにあります(資料)1・2・3というところになります。今回用意できなかったところについては次回以降なんとか用意してご提示できればなと思っています。とりあえず用意できたと

ころを説明させていただきます。

資料につきましては、資料 3、データ検証に必要な資料①、ホッチキス止めにしています A3 の横長の資料になります。この基本データという表なんですけど、いただいた表でございまして、この表に我々がデータを入力していった状況です。

昭和 54 年から表がありまして、できるだけ埋めていこうとしたのですが、なかなか古い資料が見あたらなくてちょっと歯抜けの部分がちょっとございまして。近い年数にいきますと資料がしっかりと揃っていますので、すべてのデータを埋めることができているのですが、出てきましたら随時入力していきたいと思いますが今日のところはこれでご容赦願いたいと思います。ちょっとこの数字だけを見ても、また事前配布もできていなかったもので、当日ぱっとこれを見ても何がわかるんやという話もあるのですが、だいたい数字をピックアップして、ちょっとグラフにしているのです。それが次のページの A4 の縦のカラーです。グラフ化して少しでもわかり易くなればなと思っております。

これで説明させてもらいますと、まず上のグラフでございまして。一番上の赤いグラフなんですけど、赤い線が環境処理センターで支出しています総額の費用になります。焼却炉もパイプラインもですし、不燃物処理、埋め立てのお金すべて入ったお金となっております。だいたいですね、左にいきますと、14 億・15 億・16 億この辺、毎年掛かっている費用となりまして、非常にでこぼこしているのですが、左の方からデータの的には平成 4 年あたりからデータがありまして、そこに入れているのですが、まず最初平成 7 年ごろにガックと落ちているところが震災の影響で下がっていると思われる。これとは別に、震災復旧ということで実際は費用が出ているのですが、震災復旧のお金はここには載せていません。通常費用がこの時下がったということで、後は、徐々に 16 億円くらいまで上っていったのですが、平成 16 年をピークにずっと費用が下がっていています。これにつきましては、何がここで起こったかといいますと、我々のほうの人件費の削減がちょっとここからありまして、人が減っていったということなんですけども、これです〜と年々下がってきております。

それと後は、集団回収って我々はやっておるのですけれども、自治会さんに協力していただいて、新聞紙とかアルミ缶とかを集団回収し資源化している事業、1kg まあ当時 6 円で報奨金をしていたのですが、16 年に 1kg 当り 4 円というような料金改定させていただきました。この辺も費用が下がっていった一因となっております。こういう形です〜と下がってきてまして、近年ですね、平成 23 年あたりからギョッと山のように立っているのですが、こちらは焼却炉の延命化の工事をしていたもので、25 年までかけて、約 10 億円ほど掛かったのですが、焼却炉の延命化工事をしたということでここまた上がっております。延命化工事が終わりますと、元通り、14 億ほどまで落ちているという状況です。そんな感じでゴミに掛かる総費用は動いております。

次の下の青い線なんですけど、こちらがごみの総量、我々のところに入ってくるすべての量になります。

(利用者の会): ちょっといいですか。ごみの量を見ているのですが、ちょっと説明があるかなと思うんです。検討会ではごみの「発生量」というのでデータが出ているのです。だけど 24 年度の芦屋市が出した計画では「排出量」になっているんです。「発生量」と「排出量」は違うんですね。何が違うかといったら、先ほどおっしゃったように「集団回収ごみ」。この差を 1 時間ぐらい掛けて見つけたんですよ。なんで違うデータを違う会議によって違うんですか。

(市): どの会議で出た数字ですか。

(利用者の会): これがこないだ審議会で出たデータで、第 2 回の検討会で出されたデータはこれ。こ

れでは排出量で出されているのですよ。(検討会)こちらでは「発生量」、こちらは「排出量」、何で違うデータがあるのだろうか。ごみの量も定義によって違うのだと、そうしたら芦屋市として第三者に出すときは、説明するか、統一したデータを出さないと信用ならないでしょう。

(市):その時の使い方によって、実はいろんな数字があるのです。我々も入ってくるすべての量というのがまずあったりとか。

(利用者の会):全部調べてます。

(市):この施設としてどんだけのごみを処理しているのかというと、ここに入ってくる量なんです。

(利用者の会):それはデータの下にきちんとそういうことを書かないと、貰ったほうは間違っただけの判断をしてしまう。そのために、個人で日本中のデータ、環境白書から全部ひらいてきて、どのデータを日本の国として出しているのか、排出量ですよ。もし発生量を出すのであれば、何故発生量なのか、そして、「こんな種類があるけれども、こういうことに基づいて、こういうデータを出しているのです」と説明するか、下に書いておかないと無駄な時間ばかり取られ、間違っただけの判断をしてしまう。そういうところが間々あるんですよ。どうですか。

(市):非常にたくさん数字がございまして、その時によって使う数字がこういうことを検討するときはこの数字を使おう、芦屋市としてどれだけごみが出ているかを見ようとすると集団回収も入れなければならぬ。この施設でどれだけ処理をしているのかを見る場合は、集団回収を除いてここに入ってくる量とか、焼却している量を見る場合には燃やすごみだけを抽出しなければならないとか、その時で何を検討するかで使う数字が違ってきているのは確かで、たぶんその説明書きがどこにもないので、何でこんなに数字が違うのかという疑問が出てきていると思われまふ。そこはちょっと我々の説明不足のところがあったのかと思います。

(利用者の会):(今日いただいたデータで)ごみの総量とはなんですか。それは何故排出量ではないのですか。

(市):あまり深く考えてなかったのですが、いただいた表をみて「ごみ総量」とあったもので、ここ(環境処理センター)に入ってくるものを記入させていただいた。逆に芦屋で発生しているすべてのごみを入力して欲しいということを書いていただければ、入力していたのですが。僕らもごみ総量で勝手にそう思って入力してしまったのですが。

(利用者の会):だから、そこはね、今後ともいろいろなところで、データを市が出されるとしたら、そこをきちんと説明して、下に書いていただくと。こんな論拠でこのデータはこれを使ったのですよと。他にもこういうデータがあるが、今回はこういう理由で使わなかったのですよ。そうしたらみんなもそうかと、データの信頼性が出てくる。使うところによっていろいろなデータが出てくると、発生量とか排出量とか誰も気にしていないと思う。だけど、たまたまこういうデータを1個1個見ていたら違っていたのでなんだろうかと。集団回収があるんだよということが解って、そこはあらゆるデータについていると思います。後でそういう問題が出てきますので言います。今後からは、例えば審議会にデータを出されるにしても、何故このデータ何かをきちんと回答してください。

(市):その説明は必要だと思ふ。(資料3の)ごみ総量とはここ(環境処理センター)に入ってきているごみの量で、集団回収は入っていない収集量ということになります。

(利用者の会):僕も単純に勘違いをしてしまったんですね。あの報告書で見ていたときに、パイプラインから出てきた数字は同じなのですが、ところが事前にいただいた書類にある数字は35Pと81Pの数字がそこだけ違っているのは、その原因、どういふものが入ってきたために、パイプライン以外のところの車両収集が増えてきているのか、いろいろ数字をあたってみたが合わない。結局なんだろう

うということになった。

(市):まず、こんなデータが欲しいといただいた時点で、我々のほうから確認すべきであったと、確認が漏れていた。どういう目的でこんなデータ必要ですかとか、このデータでよろしいですかの確認もなく勝手に返してしまって。

(利用者の会):この表のデータの話をしているのではないのです。検討会で出されたデータと平成 24 年度に出された芦屋市の基本計画のデータが違う、総量が。検討委員会で出されたデータは発生量。発生量と書いてあるが、コメントが何もないので、見ている人は発生量と排出量のと違いがわからないので、2つのデータを見比べたときに、なんで総量が違うのか、しかも芦屋市からでたデータですから。検討委員会には発生量、ところが24年度の基本計画では排出量。今回のデータを言っているのではなく、僕らは原簿を見ているから、原簿を見たときにわからないのです。

(利用者の会):公表されているデータを分析するときに、実はそういうところでひっかかり、「いったい何を指しているのだろうか、違うぞ」となってくるのです。その理由を山口さんが言ったように説明書きがきちんとあって、オープンデータとなっているのだから、実際審議されているとか、検討されているところでも誤解を生じるだろうと、僕は思います。実際やってみたらわかります。びっくりしますよ、分母が違いますから、(数字が)合わない。

(利用者の会):パイプラインと他所のごみとの比率が変わってしまうのです。

(市):燃やすごみだけで検討委員会は比較していたのです。

(利用者の会):収集量と報告書ですか、分厚い報告書の35Pと81Pの表がありますね。パイプラインのどっちろんでも一緒なんですよ。収集と排出とそれが、車両収集とかの集計数字が違うのです。後で計算してみたらわかると思います。何かが余分に入れてあると思われる。何が入ってそうだったのか、いろいろケースをしてみたが合わない。

(市):今後は数字の説明書きを入れて資料を作らせてもらいます。

(利用者の会):見る人がわかるように。

(市):聞かれて言わないと理解できないような資料づくりはまずいということですね。

(利用者の会):その気になってじっくり見ているから。この数字合ってますやんか、合わないからどこから来たのやろ、そこで時間を無駄に使った。

(利用者の会):もっと解りやすく言うと、パッカー車とパイプラインの比較が出ているが、じゃパッカー車とパイプライン、要はデータのベースがどんだけで比較すると変わるのかというと、例えばパイプラインの稼働時間、収集量と稼働時間というベースで計算しますよね。そうするとパッカー車で収集をしているところは毎日収集したと仮定したベースで比較するのであればデータとして比較は普通成立するですよ。ということになると、一概に、全部ばつとただ単に出ているだけで、「パーヘッド日なんぼ」という計算の仕方で統一するのであれば、それを計算して出すのが本当と思っている。この数字だけを見るとパッカー車がすごく安くて、パイプラインが高いようにしか見えないので、毎日パッカー車で収集した場合、いくらになるのか計算すれば出てくるし、パッカー車の中身だっという経費で全部計算したのか、データベースが欲しいというのはこういうことなんです。

(市):今日のグラフは単純にいただいた表をピックアップしただけで、トン当たりとか、人当たりになっているのではなくて。

(利用者の会):でも、僕の言う意味が解ってもらいましたね。それであって全部のものでなんぼという計算ができる。普通はこういう計算をするのだが、どうもそれだけを計算しているデータに見えたんで少し細かいデータを欲しいと言うたんです。

(利用者の会): 第2回目の検討委員会で出されたパッカー車との(費用)比較があるんです。これも同じように何の説明(書き)もない。普通の人、大阪のおばちゃんがぱっと見て、パッカー車が高い(低い間違い)としか言えないのですよ。パッカー車は、週2回、しかも時間が決まった時間に持っていかないと収集しない。パイプラインは24時間、いつでも(捨てることが)できると。そんなん比較したらおかしいでしょう。もし、本当に意図があって出すのであれば書かなきゃ。パッカー車は週2回、決められた時間に行くもの、パイプラインは24時間いつでも捨てられる、これをあえて比較した目的はちゃんとあるはずですから、こんな目的のために比較したと書かないと、これだけ見せると完全に意図がわかるじゃないですか。パッカー車が安いと。それを言いたいために、何の説明も要らずに、悪く考えればこの表を委員の皆さんに出した。そうしたら結論はわかるじゃないですか。パイプラインを使ってもない人がこれを見たときに「高いなあ、パイプラインは何で高いの」としか言えない。もうひとつは、何で高くなったかの説明もない。それはごみの量が減ったからですよ。昔は何でも捨てられたからですよ。その辺の説明もちゃんとしなければならぬ。そうしてこれを出すのであれば、僕らも納得できる。これだけバーンと数字だけ出されて、「高いですね、そうですね」としか言えない。利用者レベルでデータを見るときには、そういう細かなことをきちんと書いたら、市もちゃんとそこまで考えて、「僕らと一緒に信頼関係をつかったデータを出しているのだなあ」と見えるんですよ。これだけ見たら逆にとられますよ。意図があってこんなデータを出しているんだと。

(市): 説明しながら実は委員さんには(説明を)してた訳で、これだけをぱっと見せてどうぞというわけではなくて、これをベースに説明をしていたもの。

(利用者の会): 私も傍聴者で出ていましたよ。

(市): なんも言わんと高いでしょということではなくて。

(利用者の会): それを言うのであれば、パイプラインの電気量を週2回だけの計算をしたらなんぼになります、みたいな話ができるということですよ。

(市): とりあえず実績を素直に報告しているだけです。

(利用者の会): これが一人歩きをするのですよ。あらゆる時にコピーされて出るんですよ。その時説明なんてないじゃないですか。これが出るんですよ。そしたら、どうなります。

(利用者の会): マスコミも事実上これで放送しちゃっているもん。

(利用者の会): そのとき説明を聞きに来ていた人は、ある程度理解できたと思いますが、この書類だけを見た人は、その説明はないでしょ。そうすと、どうなんか、誤解をいただく恐れがありますよ。

(市): そうなるとだんだん公表できなくなってしまうんです。議事録と資料とセットで出して公表しているのですが、いうたらこのページだけが一人歩きをしたりするとなると。

(利用者の会): ここの説明を書けばいいのでは。

(市): その都度、書かなくてはならなくなりますよね。そのページ全部に出てくるので、本来は資料と。

(利用者の会): それはね、大切な資料とどうしても資料があるわけですよ、この中には。これはマスコミも取り上げた根幹の資料の一つですよ。パッカー車との比較は、そこはきちっと考えて書かないと。検討会のあのメンバーに説明した、僕も傍聴して聞いていましたが、ハッキリ言って解らなかったが、普通の人には HP にありますから、これを見て判断するわけですよ。そうしたら、パッカー車が何回とも書いてないですよ。いっさい書いてないですよ。おそらくパイプラインと同じレベルやろうと思うわけですよ。普通の人が見るわけですよ。特に、男が読んだらそんなもんごみ捨てに行っていないからわからないでしょう。そういうことを誤解を出さないように、マスコミも誤解しないように、きちっと書いてこういうものを出すことが真摯な態度であり、市民との信頼関係を作るデータだと思うのですよ。それを

見ていたら、う~と思うところが間々あるので。

(利用者の会): まあまあ、今後そういうことでオープンにするのであれば市民に対応したその辺の細やかな対応をして欲しいですね。第三者委員会の先生、まあいうたら教授やとか、弁護士やとか、会計士、その辺の人を採用していますね。端から廃止案を3通りですか・・・。

(市): 一番には継続案からはいっているのですが。

(利用者の会): 高層からやってね、第1回からのあれでも、市としての立場は費用面だけで見ると廃止ですよ。で、環境面と廃止で3通り、ず~と説明されているわけですよ。それが芦屋市のあるべき姿なのです。市長はあるべき姿が存廃ではありませんと言われましたが、やっぱり廃止のことに關しては住民にもわかるようにやってほしいですね。私は第三者委員会の、冒頭に北川部長も言われましたけど、住民の意見をよく聞いて、それが最終のまとめですね。住民の意見をよく聞いて進めなさいということは、「住民の話をよくきいて3案のこれを進めなさい」というような感じですけど。勉強会を開催されましたけど、勉強会を開催したら、その辺の話も大事なことです。費用の面、芦屋市としてはこんなことを考えているのは3通りや、芦屋浜を先に止めるとか、高層を残して最後やとか、そういうことを勉強会で言うべきやと思いますね。ところが勉強会でその辺の話を聞いて住民に理解を得るかと思ったら、その辺の話はなかったね。

(市): 今年度実は、去年やった勉強会の引き続きというので、去年やった中で先ほどもありましたが、こんな意見がけっこうあって、「数字の説明が足りないとか、欲しい」とかあったんで、我々も足りないなあという認識でもう一回やろうと思っていたのです。ただその中で、こういう場ができたので、この場でここを説明させてもらってもっとたくさんの人に浸透していけるのかと思って。

(利用者の会): その辺は大事だと思います。それをなしにして廃棄物減量等推進審議会で先ほど言われましたけど、そこで方向を決めてしまって、ポンと出されるより、住民を無視しているとか考えられない。聞いてよろしいでしょうか。聞きたいのですが、費用の内訳の中で需用費がありますね。これは年間4千万ぐらい需用費が掛かっていますね。平成24年は4千3百万、この内、電力費が4千万といわれたから、ほぼ100%ですね。電気代。

(市): 資料4で電気代、後で説明しようと思うのですが4千万ちょっと。

(利用者の会): 4千万の内訳で一番多いのは何ですか。送風機ですか。

(市): 送風機ですね。

(利用者の会): 650KWの送風機ですね。時間を取りますが、ISO14001は対象になっているのですか。

(市): 対象とまでは。

(利用者の会): 電力使用量が多いですね。その辺は取り組むべきだと思いますね。

(市): ISOというか、エネルギー管理指定工場ということで電力使用量が多いので。

(利用者の会): わかっていますよ。芦屋市としては取り組んでますね。

(市): それには入っています。

(利用者の会): 当然やっぱり、環境処理センターについてもやって欲しいですね。

(市): 本庁でやっているのは入っています。内(なか)で取り込まれて。

(利用者の会): 一応対象外ということですね。それと委託料については、人はどれくらい入っているのですか。

(市): 人件費、人数?

(利用者の会): 委託しているから当然人件費が主でしょ。委託先についての。そのうち例えば、管理

している人と点検する人とかいてますね、それはどうなっているのでしょうか。前の資料では、運転が一人で、点検が5人、なんかの資料で見たのですが。

(市):全部で5人。そのうち一人はずっと中央制御室で運転・監視している。4名の方が現場をずっと日ごろスクーターで点検して回っている。通常のメンバーです。それとは別に設備の点検というのがありますので、専門的なメーカーさんがそれぞれ来て点検しているのが別にあるのですが。

(利用者の会):委託料に入っているのですか。

(市):入っています。5人+特殊点検が別にまた入っている。

(利用者の会):委託しているのですね。これは(特殊点検)は何名でおこなっているのですか。

(市):メーカーさんが来ていますので、人数というよりも、メーカーさんから派遣されてその機械点検して帰っているということで。

(利用者の会):日々は5人。日常運転は。点検は。

(市):点検はメーカーから派遣されてやっている。

(利用者の会):工事請負費ね、これで住民起因のトラブルが非常に多いと思われる。勉強会でも聞いたが、住民起因のトラブル・故障の費用はどれくらいかかっているものですか。あの資料見たら浜風町の大量投棄による故障で、ものすごく跳ね上がったと載っていた。何千万掛かったと。平成24年。割と掛かっているのではと思っている。住民トラブルによる。先ほどトラブルの回数を言われました。

(市):ゼロではないと思います。住民さん起因のよるトラブルはそんなにない。結局、穴が空いていたり。

(利用者の会):鉄アレイをほり込んだりはゼロですか。

(市):簡単なやつであれば5人のメンテの人が行って、マンホール開けて、中に入って、取って終わったりしている。お金が掛かるのは、最初に説明した黄色いトラック、バキュームカーとかを呼んできて作業しだすと、外注になりその費用が出てくる。

(利用者の会):平成27年4月~6月まで34件と聞いているのですが、住民起因の発生。投入口に詰め過ぎが16件、ダンポールが8件含めて32件と聞いている。3ヶ月で32件も発生している。

(市):ほとんどがメンテの5人の人が行って、解除している。

(利用者の会):解除にこれだけの人が掛かっているという事ですね。

(市):5人ですべてまわしています。

(利用者の会):極端に言うとこれがゼロになったら、もっと減るとい考えられるということですか。

(市):詰まったときに誰が解除しに行こうという話が出てくるのでしょうか。

(利用者の会):ということですね。それは今何も対策をとられていないということですね。先ほど何か言われていたけれど。住民と一体となって具体的にはやっていないね。

(市):今ここで具体的に話できればなあと、我々これといって踏み出していない。今はそういう状態。

(利用者の会):パッカー車は一応センターまで持ってきて、パッカー車に関わる設備はないわけですね。例えば人手もいらないわけですね。パッカー車を開けて、そこのホッパーか何かの掘り込んでるだけです。

(市):燃やすごみは、この(環境処理センター)ごみピットにダンプして、ごみをバサッと落としたりパッカー車自体は終わりです。後は、こっちで焼却場にごみクレーンで焼却に入れて。

(利用者の会):それでは設備も費用も掛かっていないということですか。トラブルもないわけですね。例えば、分別というか、それはパイプラインよりも悪いと聞いている。それでボコーンと掘り込んで、

トラブルがあったり、そういう費用はないのですか。掛からないのですか。

(市): ゼロではないですけど、費用は掛かってない。時々、とんでもないものが掘り込まれたりしてて、こんな鉄板とかあって、我々もこんなものが入ると詰まりますので除去するのですが、結局、点検の人間、日常の人が行ってそれを取るの、それをするためにこれといった費用は掛かってはいませんね。

(利用者の会): (パッカー車の)直営を残しているのは何か意味があるのですか。

(市): パッカー車の収集ですか。これは私は答えにくいのですが。

(利用者の会): 委託のほうが安いので、何で直営を残しているのですか。私が言いたいのは、知りたいのは、何でパイプラインとあれと比較する時に、今度パイプラインを収集車に替えるときに、何で民間なのですか。民間で費用を試算するのですか。なんでそれと対比するの。比較するのであれば、芦屋市では直営と民間に委託するのであれば合わせた費用で比較になるのでは。

(市): そういう考え方もあるのですが、あの時は民間の費用で積算。

(利用者の会): ゼロになるのであれば話は別ですが、分母の計算をするときに、それが一緒になっていないとおかしいでしょうという話です。芦屋市としてですから。そうやってしかるべき。わずかなことの積み上げで考えていかなければならない。

(市): どの数字を言われていましたかね。

(利用者の会): パッカー車との比較してパイプラインが高いからこんだけになりますよ。

(市): トン当たりとか、一人当たりとか、世帯当たりとかの所ですかね。

(利用者の会): 第三者委員会でも出されました。何倍掛かっているのか。

(市): 結局、直営と比較した場合、委託と比較した場合、それぞれひっくるめた場合といろいろなケースをお出ししているの、委託とだけと比較しているのではないですね。

(利用者の会): それを言われたことがあるんですよ、5倍ぐらい掛かるからと。市長なんか言われましたよ。5倍かかるんやと。データの(こと)言われてましたけど、その辺はきっちりしておかなくてはならないと思うのですよ。一人歩きして5倍、べらぼうに高いやないかということになるしね。パイプラインと今度替えた時の費用の比較においては、直営と民間委託とそれを合算した形で比較するべきと思う。

(市): 今後の費用を出すときには、今の実績値、直営と委託が入った実績値の一人当たりの収集の収集単価、住民さん一人当たりの収集単価を出して、人口を掛けてやっていますので、今後の試算した時には、直営も委託もひっくるめた金額で試算している。説明がさっきも言ったように足りないから。〈申し訳ありません。間違った発言をしました。廃止後の費用については委託で試算しています。訂正します。〉

(利用者の会): (データ)が一人歩きするんですよ。5倍掛かっているからと。

(市): 一番目立った数字だけを引っ張って言われたんでしょうけど、我々はいろいろなケースで、それだけを出すと誤解も生じる。

(利用者の会): そこでは2倍だったかな。

(利用者の会): 市長自ら市長トークで何回も言われたから訂正を……。そういうのは一人歩きをすることがある。こんなことを言うのは失礼だが、言われていることがある。

(利用者の会): 先ほど勉強会だとおっしゃても市長は「説明は終わったんや」と会議にでているからそれはちがうでしょという話ですよ。

(市): 終わったわけではなかったのですが。

(利用者の会):現場とトップの考え方が違うとまずいしね。

(利用者の会):もう一つですねパッカー車と比較なんですけども、パイプラインのごみの量が当然減っているわけですよ。ということは価格は高くなっているのです。トン当たりは。なんで高くなったかを数字だけではなくて、その背景が思うのです。説明が。いくら口頭でも。僕は他の市を調べたんですよ。そしたら、南港(大阪の)だったら4万人という人口計算を最初しているのです。4万人がいるからごみの量はこんだけだ、だからコストはこんだけになって、パッカー車よりも安いのですよ。だけど実際は、4万人が2万3千人しか入っていない。だからそこで誤差が生じたのです。最初に計画値をお願いしたのは、その辺が知りたかったから。例えば、森の宮だったら、6千人という予想だったんです。人口が。実際は3千人しか入っていないのです。当然、最初の計算では、どこかに出して補助金をもらうために、当然安いですよ、パイプラインはだから合理性があるですよ。だけど、実際は鉛筆をなめなめか知らないが、半分なんです。横浜も調べたんですが、芦屋もそうですが、計画値と実際値があまりにも違うんです。横浜なんて10倍の予測値なんです。実際にやったら1/10なんです。芦屋市も64と書いてありましたよね。計画と実際の値が。第2回の検討委員会の資料の中に説明がありますよね。だから僕が思うには、そういう背景があってパイプラインはこの値段になっていることを書かないと。単に高いものを導入したわけではない。最初は安かったはずなんです。安かった理由は、計画した人口があって、実際の人口があって、分別の話があるのです。その3つがあって今パイプラインのごみの総量はこうなんです。だから当然高くなるのですよということを書いておかないと。

(市):違うページでは、今おっしゃったことが第2回に出てて、説明はしているのですが。

(利用者の会):パイプラインのところの比較のところには書かないと。こんなところに書いても。

(市):すごいデータ量が増えて、ページが変わってしまう。

(利用者の会):2ページをつけていいじゃないですか。そうしないと両方見比べると僕らだけ。

(市):実はトータルで見たい。そこだけ抜かれると説明が足りないですよ。

(利用者の会):市長がそこまで見えていますか、見ていないでしょう。人間、都合のいいところだけしか見ないのですよ。

(市):本当に1Pにどんだけ情報量が収まるかという話もでてくるでしょう。

(利用者の会):だから2Pに説明を裏につければいいだけの話。なんでかという、ここが分かれ目なんです。この資料を出す責任をどう考えているのか、厳密にそこは書いておかないと、あらぬ誤解、あらぬ誤解で、それについていろいろな人がいっぱい調べなければならぬし、何でこんなデータが出たんやという話になるので、そこはきちっとしておかないと、結局、こうですよ、ああですよ、そうですよと後で説明しても僕らにとって言い訳でしかなか聞こえない。それが全部でてしまいますから、そこは今度の審議会でもそういうデータを出されるのであれば、きちっと文書で残しておく。それが大切であると僕は思います。そうすると皆が同じ土俵で、こんなベースでこんな数字が出ているのでこうなのか理解できるでしょう。バラバラになってしまう。ということです。もし審議会にこういうデータが出されるのであれば、こうしてください。

(市):ちょっと考えさせてください。どの程度項目を入れるのかが、またありますので。

(利用者の会):それは普通の人が見て、理解できるデータにして欲しい。そうしないとあらぬ誤解を生んでしまいますし、その人が思い込みの中でそのデータだけをとってしまう。現に市長はそうでないですか。だからそこはきちっと考えないと。

(市):今後特に審議会に上がる資料としましては、委員さんの目線でみてわかる。市民である代表

の委員さん方の、審議会の話をしているのですが、審議会で今わかる資料としてとおっしゃっていますので、そこは委員さんの目線でわかるような資料作りをしていくということは努めていきたいと思っています。

(利用者の会):そこは僕らも見ときます。解らなかつたら、当然この場で「おかしいでしょ」という話はしていきます。

(利用者の会):1点だけ細かな話で申し訳ありませんが、パッカー車だけ、例えば更新費用だったり、車検費用だったり、それはすべて入っているのですよね。車両の保険代も。

(市):入っています。今日お出ししたこの表(資料3)の下から2つめ直営のところに、そのあたり全部含まれ、5億とか4億という数字がず〜と3億とか並んでいる数字なんです。

(利用者の会):また、いっぺんちょっとそれだけピックアップしたデータをもらえますか。

(市):はい、実際、今日用意できてなかったのですが、追加の3にちょっとあって、燃料代、修理代、あるのですが、これ以外ももっと細かなものを。

(利用者の会):更新費用であったり、車に掛かる経費は結構な金額になるものなんですよ。もっと言うと電気代をいおうと思ったが、CO2の計算の仕方は基準で発電量に対してのやり方なんです。

(市):電気代、そうですね。関西電力なので、関電さんの係数を使って計算。

(利用者の会):これも単純比較できないが、CO2、NO2、窒素酸化物がどれだけあって、排出量は各車両のデータ見たらわかるのだけど、そのデータをもってきて、その車両が走り回ってなんぼやと計算しないと比較できない。うちの車両がどんだけのものか。細かいところ、重箱の隅をつつくようなデータのチェックをしているわけではなくて、全体にちょっとベースのデータが根本的に説明不足と思ったので、私も技術者の端くれでなんで、この辺全部そろえようと思ったのですけど。

(市):今、お出ししている数字、すべてそうなんですけど、詳細な設計とかまではやっていないのですね。そこまですると費用も期間も掛かってしまうので、実際それができるかということこれから考えていくという話なんで、概算でとか、ある程度仮定させてもらって、すべて試算しているものなので。パッカー車についても、芦屋のパッカー車ではなく一般的な2tのディーゼルの車の排出するということ、こちら辺でいったもので、実際には中にはハイブリットがあたりしているんで、違ったりはしているんでしょうけど。その辺一個ずつまではやっていなくて、今の段階の我々の資料というのはある一般的な2tディーゼル車と仮定してそういうもので、すべて出ているものばかりです。

(利用者の会):送風機には、低速、中速、高速という(切替の)設備は付いているのですか。

(市):ないですね。

(利用者の会):付いていると聞いたが、使っていないと。

(市):ないと思うのですが、この後ちょっと上あがって、現場の人に聞いてみたら、もしかしたら。

(利用者の会):一番遠いところは650K掛かって、こっちの南芦屋浜でいうたら掛からないですよ。何もしないと650Kなにもせんとダンパーでやっているもったいない。

(利用者の会):普通、大型の掃除機と計算したら、大、中、小、強風とか付いていてそのスイッチが切替ができる、もしくは、南芦屋全域がパイプラインの計画だったので、もともと大きいものを入れすぎて、そういうのをきちんとだしているのであれば、大型にする必要はないんじゃないのとの記憶があったんで。

(利用者の会):南芦屋浜でいうたら、総合公園にあるのが一番遠いですね。

(市):今でいうたらそうですね。

(利用者の会):あそこで一番遠いところで650Kやったら、市営・県営であつたらぜんぜん近いので。

- (市): 本来今するのであれば、インバータでも入れて回転数を制御させたりするのでしょうか。
- (利用者の会): 普通であれば ISO14000 でなんやからいうて、回転数を制御して一番遠いところの弁がぱっと開いたら、9割とかある程度の負荷にして、一番こっちゃったら5割かなんかわからないが負荷にして、そういうソフトを組んでやってしまうのですけど。ものすごくレギュラーよりも安くなるし。
- (利用者の会): 技術的に難しいと思われるが。
- (利用者の会): 尚且つ環境にとっても非常に良いのですよ。そういうのをやっていない。
- (市): 最初からインバーターを入れてればこんなことはなかったのですが。
- (利用者の会): 先ほど審議会でどうのこうの言われましたけど、結局審議会でも、あの第三者委員会で出した資料にちょっとプラスして議論するわけでしょ。結局パイプラインを使っている自治会の代表者は3人しかいないのでは。第三者委員会で出された資料にプラスαしたら、それでいいのですかね。
- (市): ですから私は今日のお約束したのは、審議会で審議する資料はできる限り委員さんにわかりやすい(もの)。
- (利用者の会): わかりやすいではなしに、出された資料を解りやすくというてもいいかなという気がしますね。
- (市): あれをそのまま出すことはないので、こういう議論をしていますから。こういうことをたたき台にして当然新たな資料をつくるというふうになります。修正するところは修正して、もっといろいろご提案いただいて、こんなこともあるのではということ盛り込んで、作り上げたものをあげていけばいいのだなあとと思います。
- (利用者の会): もし廃止するにしても、反省をして欲しいと思いますね。平成 14 年に南芦屋でいうたら、延線を中止されましたね。その時のコスト評価はどうだったのですか。されてないのですか。
- (市): そこを調べている最中なので、もうちょっと時間をいただきたいなあと思うのですけど。
- (利用者の会): それも大事ですね、住民にあれするのに。私たちでも平成 16・17 年に大阪からこっちにやってきたのだが、・・・載っていますからね。平成 14 年に延線が中止となって、この時コスト評価がどうだったのかが頭にだいぶ残るんですよ。そのとき評価したら真赤々やと、今と同じ評価で真赤々になっている。
- (市): 当時いろいろな議論はあったみたいですが、また(資料を)探しきれていないので、次回以降で調べています。
- (利用者の会): 費用なんかでもそういう中止となった時には、反省するのですよ。それこそ PDCA をいわれていますが、チェックして次の行政としてやって欲しいと思います。
- (利用者の会): このなかの(資料 3) 数字でもうちょっと質問があるのですが、A3 用紙の中で 計画・目標値というものがあります。平成 23 年から出ているのですが、この目標値はどうやって作られているのですか。
- (市): 基本計画の中で出ている数字なんです。
- (利用者の会): 余りにも現実と違うでしょう。例えば、ここに実績と計画というのが検討委員会で出されていますが、計画収集が 29t で、計画平均収集量が 23t で、平成 24 年度 7.4t、26%となっている。平成 25 年度 8.2t と余りにも値が違うので、この計画値は余り変わらないので何でかなあと。
- (市): 81P のことですか。内容は一緒です。
- (利用者の会): パイプラインの計画値はこの中に入ってないですよ。ごみ総量ですよ。パイプラインの計画値は、なんでそれがこんなに違うのか。実際の計画値の 1/4 しかごみが出ていない。それは

計画とはいいません。せいぜい上下 10%、企業であれば上下 5%。

(利用者の会): 南芦屋浜なんかごつい計画と実績との差の乖離が大きいですよ。

(市): 計画に対して 8%ですかね。実績の。

(利用者の会): なんで平成 14 年見直さなかったのかと言いたい。それで先ほど言うたのですが。

(市): 計画値、たぶんさっき言われていたどこの施設も同じようなことをやってという感じで、こんだけ人口はりつととか、こんだけやるぞとまず設備を作るわけです。実際、なつてへん、あつちも半分ぐらいや、うちにしたらものすごく減っている結果にはなっているんでしょけども。

(利用者の会): これは 24 年やから。

(市): 設備としては作ってしまっているのです。平成 10 年には。

(利用者の会): 計画って変わるじゃないですか。変わってないのですか。最初のときからず〜と同じ値なのですか。

(利用者の会): 平成 10 年に開始したでしょう。平成 14 年に延線を中止したでしょう。ほとんど延ばすのを止めてしまった。その時に、何で実情を評価しなかったのですかと部長さんに尋ねた。

(市): ちなみに 29t という計画は設備の計画なので、これは下げることができない。作ってしまっているから。やりかえるときは小さなものを作ればいいのかもしれませんが。

(利用者の会): 南芦屋は 1 日 15t で計画したわけです。それが 1.2t でしょ。これは平成 14 年に延線を止めるという時に、大方想像がつくでしょ。設備は 15t と計画して作ったのだから。平成 14 年以降は延線中止や、当然減りますわね。平成 14 年時点で解ってます。それで先ほど伺いをしたのです。そうでしょ。t(トン)当たりの費用なんてべらぼうに高くなります。650kW は 400kW にならないわけですから、そんな大きいものをぐるぐる回すわけですか。こんなことを言うたら怒られるかもしれないが、普通企業であれば、こんなになったら、毎日毎日動かすなど。少ない水曜日から金曜日まで少なかったら止めろ、検討しなさいということになると思います。

(市): 今南芦屋浜のことなんですけど、南芦屋浜については満杯にならない限り、運転をしていないので、重量計が地下についていますので、ある程度一杯にならないと運転をかけてないのです。芦屋浜は重量計がないので、定時運転をしているのです。

(利用者の会): 混乱しているが、全体の費用を思っている。芦屋浜には(重量計が)付いていないのですね。1 日 2 回ですか。満杯であろうが、なかろうが。

(市): その辺はちょっと運転員の経験と感ていうたらあれなんでしょうが。(ごみ) 少ないところは(スイッチを)入れてないです。ここよく赤(ランプ)つくな、満杯(ランプ)がよくつくから使用している人が多いというので、定時運転のグループに組み込んだり、ここは少ないので入れない、ランプついたら運転しようということは操作員がやっている。

(利用者の会): その辺のところの改善の余地はないのでしょうかということです。

(市): 今我々は利用していただいている方にこれ以上ご不便を与えないという観点でやっている。

(利用者の会): このままでいくと減らないですよ。その都度、赤ランプついてわさわさし、現地行け、これ持っていけ、さっき費用は掛からないとおっしゃったが、私はごつい費用は掛かっていると思います。あんだけ毎月毎月多く起こってますよ。20 件ぐらい起こっているではないですか。月平均起こっているのではないのでしょうか。住民と一体となった勉強会やと思った。進めるのが大事やと思うよ。それも税金の内に入っているんですから。

(利用者の会): 藪田さんの言うことは良くわかるが、今やこの地域については、利用者については存廃の話になっているので、そこを念頭においた話し合いをと思っているのです。ご不便を掛けませんよ

- うにはいいのだが、その裏になにがあるのかと住民は思うから、そこはええ案を出しましょう。
- (市):ここから先、このような場ができたので、そんなこと今までの我々のスタンスをくずして、もっとこんなこともできるといういろいろ考えて、できるものは実験的でもとりあえずやってみたいと思っている。
- (利用者の会):ご不便をおかけしますが、そやけど廃止しますとなっているんです。そうでしょ。皆さんにご不便をおかけします。だからハッキリしたことは言いません。そやけど現実的には廃止しますとなっているのですよ。そういうことでしょ。その辺を勉強会でもっとハッキリと、費用なり、CO2の排出量なり、「こんなちゃうんや」ということを理解してもらうことが、私はそうするのかと思ったら、そんな話はひとつもないし。
- (利用者の会):そのためにも細かいデータをしっかりと我々も認識しておきたいなあということはありませんので、山口委員長よろしくお願いします。
- (利用者の会):今の補修の問題はひとつ大きなテーマとして僕らでいい案があれば考えなければならぬし、市のいろいろなデータをお持ちだと思いますので、そこは本当に真剣に考えていかないと、ますます穴が空いてきますよ。住民も困るし、市も困ると思うのですね。その補修代は僕に言わせると無駄なお金。それは大きなテーマとして、ちょっともどっていいですか。計画のトン(t)はず〜と出されていくのですか。こんな変な数字で。設備の容量の話と計画は違うのですよ。
- (市):さっきと同じ話で、説明書きが足りないわけですね。設備の計画ですよ。能力です。
- (利用者の会):能力は能力、計画は別でないと。計画は過去の3年間・4年間の実績を踏まえて、当然変わっていかなくてはならない。
- (市):計画をベースに能力に見合ったものを作ったわけです。ず〜ときているので、その計画を見直すかという話ですね。
- (利用者の会):そうか、計画の定義が違うんですね。計画の定義がまったく違うところで議論をしているから。僕はごみの量の予想値を計画と思っていたのです。市はそうではなく。
- (市):ちょっとずれてますね。すみません、どうしても設備のほうの計画で今話をしていたので、じゃなくてごみ量、発生量のほうの計画。
- (利用者の会):横浜みたいに1/10という実績値は、容量がそんだけあったと、そんだけ持ちこたえるのだけど、実際にやってみたら、実際は1/10だった。
- (市):おっしゃっていたパイプラインの計画というのは、設備の計画ではなくて、この地域から出るごみ量の計画値がどうなっているのということですね。
- (利用者の会):そうしたら、当然それが少なかったら、今の設備に対してここを変えなければならないといういろいろあるはずですよ。
- (市):この計画とはずれていますね。
- (利用者の会):そこは説明しないと、普通の人は(計画=予想値)そう見えます。
- (市):気づくのが遅くて申し訳ありません。

6. パイプライン年度別電気代(資料4)

- (市):ちょっともう一枚だけせつかく資料を用意させていただいたので説明させてもらっていいですか。これについては尾川のほうから簡単に(説明します)。
- (市):最後にあります、資料4パイプライン年度別電気代ということで、A4の一枚ものがあるのですが、平成15年~平成27年度までの電力量 kWh と料金について羅列させていただいております。料金に関しましては、今は関電ですけれども、関電の電気代の上下がありました、燃料調整

費ということで原油の価格が上がったり、国のほうから再エネの賦課金がありましたりと、いろいろ料金については違うファクターが入ってきますので、電力量に関しましては平成 15 年度から見ていくと徐々に下がっていった状況で平成 27 年度まで推移しております。平成 20・22 年度はポット上がっていますが、下のパイプライン電力合計 kWh という表があると思いますが、徐々に下がっている状況です。一番下の節電効果の取り組み内容ということで、先ほど、藪田のほうからありましたように、650kW のブロワの効率運転ですね、なかなかごみ量が少ない、これは引かないグループに入れなとか、そういう形で効率的な運転をこころがけております。日曜日に関しましては、昔に関しましては、日曜日には2時間毎の自動運転だったのですが、今は一人操作員の方が出てきて、同じように赤ランプがついた所とか、状況判断をしながら運転をかける。それで日曜日の運転も少しブロワの電力量を下げるような運転をさせてもらっています。現場のローカル側なんですけど、スクリー排出機の逆回転ということで、赤ランプがついた状態でもスクリー排出機を逆回転させてごみを押し込むような形にして、赤ランプを消すと、あと何回か投入できるようにする。少しでも引く機械ブロワを運転する機会を減らすという運転を操作員の方を含めて一生懸命やっております。そういうこともありまして、電力量に関しては徐々に徐々に下がっている状況。電気代に関しては関電側の都合とか、国の方針もありますのでちょっと上がったり下がったりを繰り返している。というような状況になっております。

(利用者の会): 上がったり下がったりではなく、上がっています。

(市): もちろん関電の単価も上がっています。

(利用者の会): それは関電の話なので。

(利用者の会): 夜間帯の電力とかあるのでは。

(市): ここは特高なので、夜間でも同じです。

(利用者の会): 日曜祭日も。

(市): そうです。

(利用者の会): 替えられないのですか、関電から。

(市): それについては検討しております。

(利用者の会): どんな検討ですか。

(市): 電力入札を検討しています。

(利用者の会): というのがですね、ひとつ僕が思ったのは CO2 の話があって、CO2 のデータを出されたときに総電力量 × 計算式がありますよね、それで数十万トンというの出されているのですが、関電じゃなくて、太陽光とか、風力とか契約すれば、CO2 はゼロですよ。そうしたら今の CO2 の計算はゼロになるのですよ。

(市): 太陽光と直接契約するというのではなくて、関電以外の電力会社と契約するという形になりますので。

(利用者の会): その時の要素として、そういう電力とか火力ではなくて、 $\cdot\cdot$ を入れるとか、いろいろな組み合わせがあると思うのです。その中に CO2 の問題があれば、できるだけ CO2 を出さないような発電設備を持っていると、CO2 の理論上の値は下がる。その辺も考えているのですか。

(市): 電力入札におきましては、料金だけではなくて、環境配慮という形で CO2 の排出係数だとか、後、どういう取り組みをしているのかも考慮に入れた入札を考えて、それによってどこの業者に決まるかはまだ解らないのですけれども。

(利用者の会): いつごろ決まる予定ですか。

(市):まだ計画中です。

(利用者の会):どうしてですか。

(市):今計画しています。一応予定としましては来年度にやりたいなと思っています。

(利用者の会):来年度ね。なるほど。解りました。

(市):一応勝手ながらこちらで用意をさせてもらった今日の資料は以上なんですけれども。

7. その他

(利用者の会):ひとついいですか、最初お話しがありましたこちらからの他市の状況ですね。芦屋を含めて全国に13、こういうパイプラインの施設がございますね。こういうデータが出ていますよね。それで具体的に余り調らべられていない、例えば、現状ですね、私どもも知りたいのは、芦屋市が持っておられる他市の連絡先、私どもも確認していきたいですから、そういう意味では、他市との連絡先等がわかれば、山口委員長の方にメールアドレスをとということですね。要するに私どもも、他市との話をきいて、いろいろな状況を確認していきたいので、藪田さんお一人であれば、やはり深堀ができていないと思うのです。いろいろなアイデアがあるかもわかりません。その中でも私たちが調べていきたい。そういう主旨でございますので、ぜひ連絡先、電話とEメールアドレスを山口委員長に連絡していただければというお願いです。

(利用者の会):大阪と長岡はわかっています。ず〜とコンタクトを取っています。

(市):大阪はご存知でしょうが、我々も時々大阪は近いので、連絡はしています。

(利用者の会):環境局の江草さんとコンタクトを取りました。

(利用者の会):江草さんは本局から来たといっていましたので。

(市):大阪はね。私のわかる範囲で。

(利用者の会):13マイナス、芦屋が1で、大阪と長岡ですから、3引いて残り9箇所ですね。

(市):前、「多摩」とか「つくば」は止めてだいぶ経つので担当がいなかったと言われたことがあるんです。以前は関わったことがある人がいたのですが。

(利用者の会):一応担当がなくても連絡先に連絡をして確認を取りたい。担当がいなくても確認したい。

(市):担当がないというか、パイプライン担当がなくなっている。

(利用者の会):お持ちのデータを全部こちらに振ってほしい。

(利用者の会):5つも残っているのですか。長岡、千葉、みなとみらい、幕張、伊丹……。伊丹は廃止方向で縮小と。

(市):あの時でよければあると思います。あの時は連絡先などありました。

(市):私のわかる範囲で、はい。

(利用者の会):もう12時をこえましたので、今日のまとめだけ、今日話し合ったことでこれをしようと確認事項だけ確認したいのですが。まず、最初は今のパイプがこれだけ故障しているので、このまま(他の部分も)補修補修で、ただ手を打っていただけではなく、真剣にひとつの大きな議題としてここで考えていかなければならないというのがひとつですかね。それとも芦屋市はこのまま金が掛かってもいいから補修を続けるのか、ちょっとわかりません。パイプラインをいつまでするのかとの話しと関わりもあるのですが、ある種の答えを出していかなければならない。これはひとつ。2番目は、自分のことしか覚えていないのですが、審議会に出すデータは、先ほど北川部長がおっしゃいましたけど委員の方にわかるように、もうひとつ踏み込んで誰が読んでもある程度理解できるような説明

とかデータとか、恣意的に利用されないようにするのが目的ですから、と皆がわかり易いデータというものを、今後はそういうことをきちんとして発表して、そういうことが必要だと思います。後は、議事録でレコーダーで録音していますから、確認すると解ると思います。そこで最後にまとめという形で。

(利用者の会): ともかくコストをもうちょっと明細を出してもらって。

(市): そうですね。説明できてないことがありますので。

(利用者の会): 次回は大きなコスト 3 百数十億の明細をきちんと、僕らにそのデータを説明していただいて、問題があれば聞きますし、1 級建築士もサポートするという話もありますので、彼らに見ていただいて、本当にそれが適切なのかということも次回はデータも揃えていただきたいと思います。何かありますか。

(利用者の会): コスト、CO2 ね。

(利用者の会): いろいろ改善する提案が出ていますが、具体的に取り組みをどうやっていくか、片一方で進めたいと。

(市): こういう話をしながら。

(利用者の会): 何もしないで、待っているのではなくて、やっぱり改善できる所は改善していくというチームというか、そこを作っていきたい。担当者もいるんだけど、もうちょっとスピーディにやりたい。ハッキリ電力を下げる方法を検討しませんかという提案もでているので、もうちょっとそこを踏み込んでこういう体制であればできるとか、そういうことも含めてもんでもらって提案していただきたい。

(市): これとは別のチーム組んで。

(利用者の会): 会議は会議なんです。実際には具体的に動かないと。解らないところも含めて我々自身が現場に立ってみて、見ないと解らない、理解しがたいところもあるし、その中で運転の仕方をこうしたらいいとか、ああしたらいい、理解しながら進めたいと思うので、会議だけでは無理だと思います。ちょっとどういう体制で、受け入れ体制としてどんなことが考えられるかちょっと考えてください。

(市): 体制を考える。

(利用者の会): どういうやり方ができるのか、できそうか。

(市): 我々はずっとここにいますので、いつでも対応はさせてもらうのですが。そうですね、どうするのか。皆さんで来られるのか、選抜チームがあって、その方が来られて現場でちょっといろいろ研究されるのか、いろいろあるのでしょうか。

(利用者の会): それでよいのですか。

(市): 我々はこのメンバーでいつも居ますんで。居れば対応させてもらうし、事前に日程調整させてもらったら居れますんで。

(利用者の会): 打ち合わせの会議はこちらでもするチームになっているので、じゃ具体的にどうしようかというたら直接連絡して。

(市): 皆さんでもいいし、今言いましたけど、選抜して何人かで現場に来ていただいて、ちょっと見ながら、これこうできないの、ああできないのというのでもいいかと思います。それは対応させてもらいます。

(利用者の会): わかりました。じゃ、はい。

(利用者の会): 議事録は1週間後に藪田さんに僕のほうから渡して、今週はしんどいですか。その辺はいろいろあると思います。この後、チェックしていただいて、そこでOKとなったものが最終的に議事録となる。その辺の日程は動くと思います。僕もたいへんなんで。

(市): ちょっと調整を、目標はそう掲げて。

(利用者の会): 今日いただいた資料はどうしましょう、オープンにしますか。問題もあるような気がします。僕がいろいろ見てたら。

(市): 修正しなければならない所、言葉足らずのところも結構あるので、できれば今日の話の踏まえて、もうちょっと盛り込ませていきたい。

(利用者の会): そういうデータが出たけども、HPでは検討が必要なのでもう少し待ってくれということにしましょうか。わかりました。

(市): 僕も勘違いしている数字を書いているので。

(利用者の会): 次回の議事内容はお互いに決めましょう。

(利用者の会): やる内容ですね。それと司会はどうします。今日は藪田さんがされたのですが、交代交代にしません。藪田さんは説明と司会と大変だったと思います。

(市): のど渴々です。

次回の開催は

日時: 10月23日(日曜日) (9月28日 藪田さんより確定の連絡あり。)

場所: 環境処理センター会議室、時間は10時から。

議事: もう少し詰める。

(利用者の会): このようなデータが必要であれば、山口までご連絡ください。藪田さんに連絡します。

(利用者の会): すでに要求されているデータは次に用意してもらえるのですか。

(市): 私はこれをベースに用意をしようとしていますので、たぶん今日の段階でご用意できたのが、勘違いしている部分もあったのですが、採算性のデータは別にして、資料1・2・3と追加の方の2番電気料金について、この辺が今日ご用意できた資料ですね。残りの部分は、追って作っておりますので、お出しできればなあと思っております。

(利用者の会): どうもありがとうございました。

(市): どうもありがとうございました。

以上